

事業所名	ibe		公表日 2025年 3月 31日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	0	・支援に十分な広さ、部屋数もあるので用途によって使い分けでき、利用児童が多い日でもスペース的に過ごせている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	0	適切な配置数で支援に取り組んでいることで、児童の様子も把握しやすく連携しやすい。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	0	視覚的な工夫もあるが、必要最低限にし行動の動線が自然に習慣化と無駄なく効率的になっている。 ハード面の設備は難しいところもあるが色分けやルールなど児童目線でカバーできるように情報から生活ができる環境になっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	0	支援場所の掃除、アルコール消毒、を徹底し、いつ来ても同じ場所に同じもの衛生的にも安心できる環境になっている。児童も利用の中で自然と手洗いうがい消毒など習慣意識が育てている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	0	運動スペース・学習創作スペースがあるが児童を分散することで職員が目が減ってしまい事故を防ぐため、児童同士で場所を決め全体で動いているが、必要に応じてどちらかの部屋もしくは相談室などを使用はできている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	0	毎業務後に利用児童の振りかえりを行い、パートを含めて全体で月に1度の職員会議で行っている。 気になる点は声に出し、見直しや、改善することで業務全体の向上を図っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	1	支援前後、連絡帳、電話、送迎時などで意向や相談の場を持ち、検討できる範囲内は行っており業務改善の機会は増えている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	意見が言いやすい環境の中でミーティング、毎月の自己評価、相談シート、会議内等で取り上げている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	4		第三者による外部評価を検討します。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	4	0	ほぼ毎月外部（オンライン含む）もしくは社内での受講する機会はある。また必要な資格研修も受講する機会が確保されている。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	0	事業所の特徴がしっかりと表記され公表されている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3	1	児童、保護者、相談員、学校等での情報、事業所を利用している時の情報を分析し計画を立てている。	初回の個別支援計画を立てる際にアセスメントをしっかりと取れるようにします。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3	1	計画作成にあたり話し合いや計画書、モニタリング表を見ただで保護者の同意を頂いている。日々の児童の様子、課題を職員全体で周知しベクトルを合わせてPDCAを実施している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	0	計画は作成時には全職員が確認し、必要な支援方法、情報等を伝えている。毎利用後に個々の計画に対する評価も行っているため、意識高く取り組んでいる。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	0	フォーマルなアセスメントはしているがインフォーマルなアセスメントはしていない。	インフォーマルなアセスメントも取り入れるように検討します。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	1	児童の気持ちに寄り添いながら必要な項目も具体的な支援内容で適切に設定されている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	0	5領域を意識した立案をし、バランスよく様々な経験ができるような配慮をしている。 活動プログラムの立案、実行はチームで行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	0	児童のことを常に考えた日ごと、児童によって活動内容を変えている。単体の活動もあれば、関連性のある活動を連動している。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3	1	活動によっては個別、集団の支援内容を組み込まれている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	0	支援開始前に打ち合わせし、支援中の変更にも連携し行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	0	送迎後に当日の振り返り、送迎時の保護者との内容も含めて共有し、パート、休日職員にも後日ミーティングで周知している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	0	支援終了後に記録をする時間があり、記録時も職員同士で視点が違うので情報の共有をし計画と整合性を確認し行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	0	計画の評価見直しを最低年2回行っている。また相談員と一緒にモニタリングが行える時は行い計画のベクトルが合い保護者様の負担軽減を行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	4	0	4つの基本活動、自立支援と日常せいかつの充実のための活動、創作活動、地域交流の機会、余暇の提供、色や物の選択、食事の量など、自分で決め申告できるように、児童ひとりひとりを尊重して支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4	0	自身で考え、伝えること、決定し行動する大切さを日々尋く声掛けをし、児童が行動しやすい活動内容や環境づくりがされている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	1	サービス管理責任者もしくは資格保有者が会議等に参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	1	学校お迎え時に情報の共有や、学校の先生が事業所へ児童がどのように過ごし取り組んでいるのか見学等し方向性を照らし合わせ将来に向けた目標を持ち連携した支援を行えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	0	その都度、情報共有し適切に行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	0	直接は少ないが児童発達支援事業所とは利用開始前に情報共有しているが、他はなく、グリーンファイルを活用している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	3		必要に応じて機会を設けていきたいです。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	0	頻度としては少ないがイベントなどで地域との関わり活動する機会があります。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	1		協議会等への参加を検討していきます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	0	送迎時、電話、事業所で日々の様子や課題をお伝えし相談等はお聞きし持ち帰り対応しています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	1	頻度は少なく全体ではないが必要に応じて家族支援プログラムなどの機会や情報提供を行っている。	定期的に家族の方に事業内容、活動内容、成長、課題などを伝えられるような交流の機会を継続的に設けていく。また、研修も検討していきます。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	0	適宜行っています。		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	0	面談や送迎、時間や緊急の場合電話などで機会を設けています。		
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4	0	利用開始前、最低でも年2回は原案から説明し支援内容を確認後に計画の同意決定しています。		
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	0	保護者からの発信のみならず話をする必要が、お互いにある場合は適宜行っております。		

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	0	家族参加型のイベント（活動）を行うことで、保護者同士が顔を合わせられる機会を設けている。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	0	適宜行っています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4	0	年3回のおたより、イベントはその都度の発信している。インスタグラムの開設はしているが中断している。	今作成中ですので、準備ができ次第発信していきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0	個人情報の漏洩に注意しながら、イベントや作品応募などはあらかじめ参加、個人情報の有無を書面で確認して行っています。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3	1	必要に応じて対応しています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	0	少ないですが近隣の地域方を招待することもあります。また、地域周知のためにクリーン活動を行っています。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	0	各マニュアルは作成しており、研修と身近に発生しそうな救急法訓練も様々な訓練を行っている。	家族等に訓練風景は利用された児童にはお伝えしています。マニュアルが周知できるように検討していきます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	0	年に2回火災、地震避難訓練、過去の災害の振り返り、防災センター、初期消火、防災食を作り食べる、ハザードマップや代用防災用品を作成する、などを児童と一緒にやっている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4	0	フェイスシートの記入を依頼し、状態の把握、お薬の情報の提出を依頼している。変更時理由や副作用も情報共有している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	0	個々のアレルギーはしていないので、最初から該当しない食品で対応している。また、徐々に慣らしていくいきたい要望には摂取量を調整し様子を保護者に伝えている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	0	地域と連携し、事業所でできることや地域の方に力を借りるなど分野を分けています。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	0	交通安全指導など安全計画に沿って取り組み、その様子は送迎時や記録でお伝えしている。	利用児童のみのため取り組みがあまり伝わっていないのでSNSなどで周知がしやすいようにしていきます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	0	ヒヤリハットが発生した場合、なるべくその日のうちに全員周知し、ソフト面ハード面双方の再発防止を検討し対策します。また会議でヒヤリハットゼロにはどうしていけば良いか意見を出し合い全員で意識をもって取り組んでいます。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	0	年2回虐待研修+外部の研修（オンライン含む）、権利擁護の研修も併せて行い、常に意識をもって支援に取り組んでいる。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	0	利用開始時や、最低年2回は原案計画書で示して説明と同意を得てから計画記載しています。		